

2021年度 事業報告

(2021年4月1日～2022年3月31日)

2021年度は前年度からのコロナ禍が続く中でしたが、オンラインなどの新しい様式にも慣れ、工夫しながら、順調に事業活動を展開することができました。とくに、小中学校を対象にしたソニー子ども科学教育プログラムでは新しい論文募集部門として、「教育実践計画」の導入を行い、幼児教育関係では前年に発足させた保育者の会員組織「乳幼児のための『科学する心』ネットワーク」について、会員向けサービスの拡充とともに会員拡大を図るなど、新しい施策にも積極的に取り組みました。

【公1】 科学教育を中心とし、幼児および児童生徒の豊かな人間性の確立と創造性の育成を目指す事業

1. 幼児教育

(1) 「幼児教育支援プログラム」(保育実践論文)

2021年度の論文募集には前年より19園多い、155園のご応募をいただき、過去最多を記録した一昨年(2019年度)の153園を超え、最多応募数を更新しました。前年(2020年度)はコロナ禍の影響を受け、大きく応募数を減らしましたが、コロナ禍の対応ができてきたこともあり、新規応募園が増加し、再応募する園が増えてきた結果によるものです。論文審査(選考)においては未だ現地訪問による調査はできませんでしたが、オンラインによるヒアリング調査を行うなどにより、厳正な審査を行い、結果、最優秀園には「さがみ愛育会 幼保連携型認定こども園 愛の園 ふちのべこども園(神奈川県)」と「京都市立明德幼稚園(京都府)」が選ばれました。また、優秀園についても、審査員特別賞にも選ばれた「鈴蘭台学園 認定こども園 いぶき幼稚園(兵庫県)」をはじめとする12園が、そのほかにも、優良園15園、奨励園50園を決定しました。

(2) 入選園による実践研究/提案発表会の開催

2020年度最優秀園による実践研究発表会は2021年10月16日に「世田谷区立希望丘保育園(東京都)」において、同年11月6日に「仙台みどり学園 認定こども園 やかまし村(宮城県)」において、それぞれオンライン形式により開催いたしました。昨年に引き続きオンライン形式となりましたが、グループに分かれてのディスカッションや保育のライブ中継など新たな試みにもチャレンジしながら、学びを深める会となりました。また、任意で開催をお願いしている優秀園による実践提案発表会も6園が開催し、実践の共有をしながら互いに「科学する心を育てる」保育について学び合うことができました。

(3) 「科学する心を育てる」保育の啓発活動

園による発表会だけでなく、さまざまな形で「科学する心を育てる」保育の啓発活動を展開しました。前年度の応募論文のダイジェスト版として毎年好評をいただいている冊子『科学する心を育てる』実践事例集(Vol.18)を今期も刊行し、制作した3000部を全国の園に配布し、園内研修の資料にするなどして活用いただいています。また、論文への応募を促す「論文説明会」ではオンライン形式ながら今までとはやりざまを変えて、単に募集要項を説明するだけでなく、「科学する心」についてのワークショップもプログラムに盛り込み、「科学する心を育てる」保育についての理解を深め、実践につなげるきっかけとなり、長い目で論文応募に戻ってくることも期待しています。

(4) 「科学する心を見つけよう」フォトコンテスト

このコンテストは保護者が子どもに芽生えている「科学する心」を表情や仕草から見出し、それを見逃さず写真に収めてもらうことで、「科学する心」の理解を深めていただくことを目的としています。15回目となった今回は286作品の応募をいただき、「科学する心賞(最優秀作品)」の2作品を含む、45作品が入選となりました。応募作品からは、子どもたちの「科学する心」の関心はコロナ禍で制約された生活にあっても、生き物や植物、自然事象、ものづくりで

あることはコンテスト開始当初から変わらないことがわかります。また、この 15 回を振り返ると、当初はほとんどが自然やその事象を扱った写真でしたが、回を重ねるにつれ、ものや音、光など、多種多様な対象に、子どもが興味・関心を示した作品が多く寄せられるようになりました。保護者の方々がさまざまな対象物の中に子どもたちの「科学する心」を見出していただくようになったことを感じます。

なお、15 回を重ねてきたこのコンテストですが、昨今の SNS 普及により写真撮影や投稿の仕方も大きく変わってきていることから、現在のコンテスト形式は終了し、趣旨はそのままに、さらに保護者世代が参加しやすいプログラムへ移行をしていく予定です。過去の入選作については今後も財団ウェブサイトでご覧いただけます。

2. 子ども科学教育

(1) 「子ども科学教育プログラム」(教育実践論文/教育実践計画)

従来から募集してきた「教育実践論文」については応募数が 161 校となり、残念ながら、前年度(2020 年度)から 16 校減少しました。校種別では小学校が 27 校減少、中学校が 11 校の増加となっています。審査委員による厳正な審査の結果、最優秀校には刈谷市立朝日中学校(愛知県)と横浜市立立野小学校(神奈川県)がそれぞれ選ばれました。そのほか、優秀校として 6 校、奨励校に 62 校が選定されました。

また、新規に募集した「教育実践計画」は初めての募集にもかかわらず、全国から 44 名の先生方から応募いただきました。従来の学校単位ではなく教員個人を対象とし、子どもたちの活躍する未来社会をイメージして今必要な教育計画を提案してもらうもので、応募者の半数近くは従来論文への応募歴がなく、新しい関心層の取り込みにつながったとみています。提案された教科も理科だけでなく、数学、国語、体育、道徳、総合、ICT、STEAM、SDGs など多岐にわたる計画が寄せられました。こちらも厳正な審査の結果、5 名の方が入選に選ばれ、計画を実行するための助成を行っています。

(2) 最優秀校による「子ども科学教育研究全国大会」の開催

2020 年度最優秀賞受賞校による「子ども科学教育研究全国大会」は、2021 年 11 月 14 日に旭市立干潟中学校(千葉県)において、2022 年 2 月 5 日(土)には千葉大学教育学部附属小学校(千葉県)でそれぞれオンライン形式により開催しました。両校とも授業の様子をビデオ撮影に収めたものを紹介して実践を共有したり、全国の先生方をパネラーにディスカッションしたりとオンラインならではの趣向を交えて、先生方同士の学び合いを深め、交流につなげています。

【公 2】 科学教育を中心として豊かな人間性の確立と創造性の育成を目指す児童生徒対象の体験活動事業

1. 科学の泉－子ども夢教室

ノーベル化学賞を受賞された白川英樹博士を塾長に、大自然の中で 5 泊 6 日の探究活動を行う「科学の泉」は前年度に引き続き、2021 年度もコロナ禍の影響を受け、開催見送りいたしました。さらに 2022 年度もコロナ禍の先行きが不透明なため、既に開催しないことを決定し、3 年連続の開催中止となります。一方、卒塾生たちの「交流会」については前年同様、集会による開催は見送ることにしたものの、卒塾生たちの近況報告やその後の研究活動を冊子にまとめ、送付いたしました。誌面交流ではありますが、少しでも卒塾生がつながりを感じ、交流のきっかけとなることを期待しています。

2. ソニーものづくり教室

ソニーものづくり教室はソニーのエンジニアや学校の先生方によって、子どもたちに「ものづくり」の楽しさを伝え、「科学する心」を育みながら、「科学が好きな子」を育てるプログラムです。例年であれば全国のソニーの事業所(工場)や学校で 1,500 人を超える児童・生徒にものづくり体験の場が用意されますが、コロナ禍のため、開催がままならない状況が続いています。そのような状況の中ではありますが、以下のような活動を展開しました。

ソニーグループ（株）の夏休みイベント「Curio Step 夏のオンライン工作教室」に出展し、紙コップスピーカーづくりのプログラムを提供、300名以上の親子に参加をいただきました。

また、コロナ禍のため、屋外での活動が制約されている保育所や学童保育を対象に、台所用スポンジにゴムチューブとモーターを取り付けて動く玩具キット「スポンジー」を200セット用意し、希望する園や学校に無償提供しました。

開催した園からは感謝の手紙とともに、完成した作品の写真が送られてくるなど屋内での活動に活用いただきました。高校生向けには今回で2回目となる「ソニーエンジニア体験プログラム」を開催しました。このプログラムは、高校生を対象に4名で1チームを募り、ソニーのエンタテインメントロボット“aibo”の開発チームによる協力を得て、aibo連携アプリケーションの企画から開発・製品化までの一連のプロセスを体験してもらうものです。

全国から6チーム（24名）が参加し、うち3チームのアプリケーションは一般公開が認められ、希望するaiboユーザー様に無償で提供されることになりました。前年よりもレベルが上がり、実戦さながらの体験プログラムに参加した高校生だけでなく、先生方からも好評をいただきました。

【公3】 科学教育を中心とした教員の質的向上を目指す研究・研修等諸活動を支援する事業

1. 幼児教育

（1）保育者会員組織の拡充

2020年6月に発足させた保育者の会員組織「乳幼児のための『科学する心』ネットワーク」はその後も会員数を増やし、現在700名ほどの会員規模となりました。発足2年目となる2021年度は会員サービスの充実と会員間の交流を活発化することに注力しました。会員サービスの充実では、毎月発行する会員向けメールマガジンを全面リニューアルし、挿絵やレイアウトを見やすくするとともに、内容も保育界の著名な見識者によるコラムや「科学する心」を学び、すぐに保育に実践できる事例紹介など実用的なものを展開させました。また、会員限定のSNS（facebook）では会員の保育実践が頻繁に投稿され、投稿に対するやりとりが展開されたり、イベントの告知に活用されたりするなど、会員間で活発な交流がされるようになっています。

さらに、会員限定の月一回程度の研修イベント（講演会やワークショップなど）を定期的で開催し、オンラインながらも毎回多くの会員に参加いただいています。いずれも「科学する心を育てる保育」の啓発に通ずるものであり、今後もさまざまな会員特典やイベントを催すことにより、会員間の交流を促しながら、保育が連携し、協働して実践を深めていく環境を用意していく予定です。

（2）「地域自主研究会」の推進

近隣にある5園以上が集い、「科学する心を育てる保育」の向上を目指す自主的な研究活動を奨励すべく、活動費の助成を行っています。2021年度も北海道、山梨県、長野県、大阪府、奈良県、兵庫県、大分県、新潟県、福岡県で研究会の活動を行いました。コロナ禍のため、多くがオンライン形式による開催が主となっていますが、一方で地域や時間の制約が少ないため、遠隔地からの参加も増え、自主的に研究する保育者の輪が広がっています。財団ではこうした実態も踏まえ、地域に根ざさない自主研究会（勉強会）を支援する新しい仕組みの検討を始めています。

2. 子ども科学教育

ソニー科学教育研究会（SSTA）への支援

財団理念に賛同した教員の任意団体組織「ソニー科学教育研究会（SSTA）」への活動支援を行っています。2021年度もSSTAの「科学が好きな子どもを育てる」教育の研究を深める活動に以下の助成をしました。

■トップリーダー研修会

2021年度に新たに導入したこの研修会は将来子どもたちが活躍する未来社会を想定し、そのために今、必要な教育を考え、実践に移すことを求める、SSTAのみならず教育界のリーダーの養成を目指す研修会です。昨年6月

に開講し、科学者、エンジニア、教育研究者らの様々な講演や勉強会を通じて未来社会への見識を広め、高い視点をもってこれからの教育を考え、やるべきことを提案すべく取り組んでいます。2022年12月にはこれまで練ってきた実行プランを提言してもらい、その後、自校に持ち帰り実行に移してもらう予定です。財団からはこのプログラムの企画構想、具体的な設計とアレンジに至るまで全面的に支援を行いました。

従来の SSTA 研修会はより良い授業をつくることが主目的でしたが、本研修会はまったく別の切り口の研修会であり、参加した研修員の意識が大いに変わり、SSTA 幹部からも校長や教頭にも受講させたい研修会と評価されています。

b) エリア研修会

この研修会は SSTA の授業研究の最上位のもので、全国を 6 つのブロックに分けて、オンライン形式で開催することにより、自治体や地域を超えた先生方の交流により研究を深める、他には例を見ないオリジナル研修会です。

2022 年度より本格スタートを目指していますが、すでに 6 ブロックとも「科学が好きな子どもを育てる」ことを目的とした研究テーマを設定し、講師やカリキュラムの準備も進めています。

c) 支部研修会

SSTA 傘下にある 50 支部が独自に行う支部研修会への支援もしています。本研修会は各支部の活動活性化（強化）を第一の目的とし、新規会員の獲得（とくに若手教員）に重きを置いて、SSTA の魅力を訴求、支部メンバー同士がつながり、高め合う場として、各支部の創意工夫して行っている研修会です。また、会員が少なく、活動の余力がもてない支部については周辺支部との合同研修会（クロス研修会）として開催できる仕組みを整え、支部同士でも援助し合い、全体のレベルアップを図っていきます。各支部では主に理科の授業において、子どもたちが好奇心を高め、学びを深めることができる授業の研究を中心に様々な活動を行いました。

以 上